

学校だより 2学期 第3号

本部長「武本部」

2019年11月20日(水)

(発行者) 校長 石川 清一



2年生 地区中学校意見発表 女子の部 最優秀賞受賞

先日12日(火)地区PTA連合会主催の第27回国頭地区中学校意見発表大会が、国頭中学校(女子の部)において開催され、本校の生徒が見事最優秀賞を受賞しました。仲程さんは、来る12月13日(金)に沖縄県大会(宮古大会)に、国頭地区代表として出場します。仲程さんの発表原稿を紹介します。

本当のコミュニケーションとは 2年 仲程心風

皆さんは、周りの人とうまくコミュニケーションを取ることができていますか。少し前に比べ、今はメールやSNSなど、いつでもコンタクトがとれる便利な世の中。反面、相手に自分の気持ちをうまく伝えられないコミュニケーション障害などと言われる人が増えています。コミュニケーションのとり方も、時代と共に、多様化している今、本当のコミュニケーションとは何かを、考えるきっかけになったのが、今年6月に行われた職場体験です。

小さい頃から、動物が好きだった私が選んだ体験先は、沖縄美ら海水族館でした。調教師と、イルカたちとの絶妙なタイミングで繰り広げられる様々な芸。私は、その芸を支えている、調教師とイルカのコミュニケーションの取り方に、以前からとても興味をもっていました。実際の現場を目の当たりにしてあることに気づきました。そ

れは、調教師さんの表情です。そして元気な明るい声、笑顔も絶やすことがありません。成功した時にあげる魚と一緒に、調教師さんの満面の笑顔と、プールに響き渡る、褒め言葉をイルカたちも理解しているかのように、大きな体を回転させ、うれしそうに声を上げていました。言葉がなくてもイルカと調教師のように、表情や態度で互いにわかり合ったり、伝え合ったりして、信頼関係を築いていけるんだと深く感じ、強い感動を覚えました。それと同時に現代の私達は、メールやSNSなどの、言葉や文字に頼りすぎて、一番大切な心から相手に自分の気持ちを伝え、相手の気持ちを理解するという、伝え合うことを、私は忘れていたのではないかと感じたのです。



私達は、家族や学校、クラブ活動、住んでいる地域など、日々誰かと関わり合いながら生きています。その中で交わされるあいさつや、友人との何気ない会話など、当たり前前にしていることが、私たちのコミュニケーション能力として身につくものだと私は思います。今は、スマホさえあれば、いつでもどこでも、その人達と直接会わなくても、簡単にやりとりができる、便利な時代です。そのため、文字といっても絵文字や略語だけでなく、若者の間で使われる造語などにより、互いに誤解が生じるという問題も起きています。それが、コミュニケーションが苦手な人が増えている一番の原因だと私は考えます。文字だけで気持ちを伝える場合、一方通行になってしまう時もあります。自分の気持ちを伝える手段は言葉や文字だけでなく、相手に向ける顔の表情や、抑揚のある声、体を使っての身振りや手振りなど、すべてを使って伝えなけれ

↓ 裏面にもあります!